要求をすくいあげ 実現に向けた各地のとりくみ

初の半日開催、議論し創り上げた「２０２０年度方針」と「３ヵ年計画」

埼玉教育新聞

第2201号
編集兼発行人
埼玉県教職員組合
情報宣伝部
さいたま市浦和区高砂
3－12－24教育会館内
電話048（824）2511
（一部　10円）
毎月15日発行
（組合員の購読料は組合費に含む）

埼教組メールアドレス
saikyouso@kyouiku-net.org
埼教組ホームページ

埼教組　困っていること、組合の知りたいことがあれば検索を！

第89回埼教組定期大会

どの柱も前向きで熱心な発言が出された

川島町中山小分会　渡辺一弘

比企単組として、「一年単位の変形労働時間制」導入や人事異動の問題で、単組役員が比企地域、9市町村中、7市町村の教育委員会訪問、教育長、校長会等との交渉、懇談活動を行ってきました。この中で見えてきたことは、どの市町村も、「一年単位の変形労働時間制」には、消極的、また、時期尚早という回答がほとんどで、ある校長や教育長は全否定する方もいました。この活動から言えることは、この制度が教職員の労働時間短縮にはならないという事だと言えます。：

上尾市立上尾中分会　佐々木孝夫

コロナ禍の大変な時に、上尾市の学校現場ではその大変さを増長する圧力がかけられている。不足した授業数を補うために「7時間授業か土曜授業か」を迫られ、時間外勤務が増えるのに時間外勤務100時間超の教員は「働き方改善策」を提出するよう強制されている。現場に寄り添おうとしない教育行政に怒りしかない。この状況で「変形労働時間制」の導入は、働く者の権利を奪う時代に逆行した悪事に他ならない。私たちは上尾市内の全33の小中学校で働く教職員100名に導入阻止を訴える手紙、情宣、署名用紙を郵送し、反対の世論を広げている。

さいたま市植水小分会　詫間恵里子

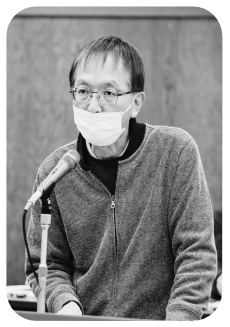
さいたま市のトップダウンについて発言します。細田教育長はコロナ禍でも「さいたま市の教育は日本一」の発言を繰り返しています。9月に強行した小6民間技能試験「英語トライアル」では、決定に際して議事録さえ存在しないこと、事務局内での検討が実質わずか3日だったことが分かりました。また「（施策を）校長に知らせれば『丁寧に職場に周知され、理解を得られると認識』」する奢った姿勢も明らかになりました。児童に氏名や生年月日等個人情報を記載させたことも深刻な問題です。子ども不在の教育行政と今後も闘っていきます。

書記局分会　平沢千里

私たち書記は「埼教組の組織拡大・財政再建」のために何ができるかを常に話し合い、実践しています。

私を含め3人は同時に定年を迎えます。私たちが退職した後も少なくない組合員や共済の加入者がいます。その人たちに組織は責任を持たなくてはなりません。その責任を果たすため、また皆さんの活動を支えるために、書記局の機能継続は必要不可欠です。どうぞあらゆる機会でこの組織問題を課題に取り上げていただけたらと思います。

オープンチャットは埼教組の未来を支える重要なツールです。より多くの組合員の参加をお願いいたします。



富士見市立東中分会　松木裕二

7月の富士見市長選挙に、新しい富士見市をつくるにじいろの会から前委員長の石川よしえが出馬しました。大きなご支援に感謝します。当選には至りませんでしたが、市民との精力的な活動で、教育・福祉の充実を全市的に訴えました。

この中で、現市長が当初やらないと言っていたコロナ対策を実現、「特別教室・体育館のエアコン」の計画的な設置、国に対して「少人数化の推進を求める意見書」が市議会で全会一致されるなど、会の公約の柱が実現の方向に動いています。この選挙で、多くの市民の声が明らかとなり、大きな力になっています。

鳩山町立鳩山小分会　中村潤

青年部のとりくみについてです。5月30日（土）に開催した2020年度定期大会は、一斉休校期間だったため、初めてオンラインを使用しました。オンラインにより初めて青年部行事に参加した方がいました。子育てなど様々な事情で外出が難しい人とも繋がるきっかけになります。今後、対面とオンラインを併用したとりくみを考えています。育休・産休中の教職員向けの「①ママパパ交流会」、青年教職員の教育実践を交流する「②センセのがっこう」、組合について知る「③ユニオンカフェ」です。支部・単組内でも青年部を広め、共に学習していきましょう。

秩父市立影森中分会　金子美智雄

1学期に「危険だから」子どもにトイレ清掃をさせず、職員がやるよう秩父市教委から指示が出た。危険なのは職員も同じなので、交渉を申し入れた。その席で「業者に頼め」と言えば「感染が怖いから外部は入れない」と回答。「生命保険会社が入ると聞いているが」と訊くと「答えられない」と言いながら、交渉のその日に「生命保険会社が小学校のトイレ掃除に入る」ことをプレス発表。あげくの果てにそこの社員から感染者が出る始末。このような当局の姿勢を厳しく糾したい。

けやき

２０２０年埼教組のＨＰがリニューアルされた。その後、フェイスブック、ツイッター、ラインと、次々にＳＮＳツールを駆使した情報発信が始まった。１人分会が増え、組合員の横の繋がりが薄れてしまった今、有り難いことだ。ＩＴ難民と自虐に浸っている場合ではないと猛省をした次第である▼先日、延期になっていた定期大会もコロナ対策を施した上で実施することができた。コロナ禍において様々な当局の現場を顧みないずさんな対応や指示が現場に様々な混乱を招いていることが改めて明らかになった。今こそ組合の存在意義が試される時と感じた▼変形労働時間制を導入させないとりくみも12月、3月議会を睨んで奮闘しなければならない大きな課題の一つである▼今朝は私の住む地域に初霜が降りた。また周囲の山々は燃えさかるように色付き、心を和ませてくれている。コロナ禍であっても自然は泰然自若で粛々と季節を紡いでいる。見習いたいものである(な)

一時金削減は許さない

～地公労・埼教連 団体交渉継続中～

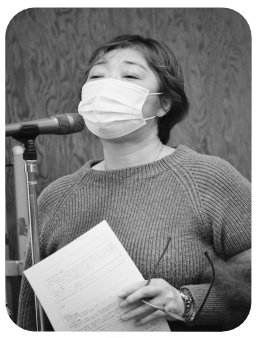
10月22日に埼玉県人事委員会は国に追従する形で一時金のみ0．05月引き下げの勧告を行いました。例年とはまるで異なる日程の中、地公労は賃金・諸手当、待遇改善の前進を勝ち取るために、10月29日に第1回目の交渉の場を持ちました。ところが第1回の交渉の中で示されたものは、私たちが望む前進回答ではなく、コロナ禍でもエッセンシャルワーカーとして奮闘する県職員・教職員に一時金の0．05月分の引き下げという断じて認めることのできない逆提案でした。

11/6の埼教連交渉の様子

一時金引き下げは、今年度から制度が運用されている会計年度任用職員にも示しました。少ない収入でありながら、学校の穴を埋めて働く会計年度任用職員に対して、一般職同様に一時金を引き下げれば、生活への支障があり容認できません。

第2回目の地公労交渉は20日の早朝に決まりました。現在、諸手当等の改善も含め、私たちの要求を形にするために予備交渉を重ねています。

地公労要求から切り分けた教育の課題を埼教連として「基本要求書」を提出しました。さらにこの12月議会を目前としている中で「1年単位の変形労働制」「人事評価システム・再任用問題」「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の3つの話題を個々に要求書を提出し、交渉を求めています。



職場は「変形労働制」を求めていない

11月12日に月例給と人事管理に関する人事委員会勧告がされました。月例給と民間給与の差は△87円で少額なため改定はありませんでした。人事管理については国の流れに合わせた内容であるものの、定年引上げや給与等の処遇のあり方についての検討や不妊治療や仕事と生活の両立にかかわって休暇制度の取得促進、取得しやすい環境づくり等に関する記載も見られました。教職員の働き方に関しては、一年単位の変形労働時間制にも触れられ、「県教育委員会は、制度の活用により休暇のまとめ取りができ、他の施策と相まって教育職員の働き方改革が推進できるか検討していく必要がある」などと現場実態に即さない、国準拠の処方箋違いの「働き方改革」を示しています。「1年単位の変形労働時間制」に関する埼教連交渉の中でも、「埼玉県　学校における働き方基本方針」に即した「多忙化」解消・負担軽減を最優先課題としつつも変形労働時間制について「導入した際の利点や課題を整理するとともに、他県の動向を注視し対応してまいります」と曖昧な回答をしています。勤務条件にかかわる内容は私たちとの交渉事項であり、国や他県の動向は関係ありません。

現場からの積極的な交渉参加で団結して要求実現にとりくみましょう。

まだの方、若い方はぜひ参加を♪

組合員専用ラインオープンチャット

10月の13日付けの発信文書で運用の周知をした組合員専用ラインオープンチャット「埼教組のなかまたち」の参加人数が先日100名を越えました。学校現場では、およそ7割が一人分会という現状で、単組や支部での集まりがないと組合員とのつながりが感じられないこともあると思います。そうした中で何とか組合員同士のつながりや情報交換を手軽にできないかと活用に踏みきったのが今回のラインの「オープンチャット機能」です。

支部・単組の現状は様々あると推測しますが、OBやベテラン組合員の力で執行部が成り立ち、支部・単組の形を維持しており、現職の組合員は日々の業務に追われて組合活動ができない状況が今の状況ではないかと思います。さらにコロナ禍で組合が大切にしている対面での人と人とのつながりに制約がある中で、これまで以上に本部↑↓支部↑↓単組↑↓分会の情報共有が難しい状況が続いています。

組合員のつながりを深め、情報をスピーディーに共有

オープンチャットはそうした今（あるいはこれから先の埼教組の組織体制）の状況を考えた際に、支部・単組・専門部の枠を超え、組合員がオープンチャット内に集い、情報を共有・交換するという点ではスピーディーかつ簡単・手軽に行える最適なツールです。また、支部・単組・専門部の役員を担う方がオープンチャットに参加をすることで、これまでハガキ等で発送していた案内などにかかる経費も削減することができるため、埼教組の厳しい財政状況の負担を軽減することにもつながります。もちろん、全ての組合員の方がラインを活用できるわけではないので、部分的にはこれまで通りの連絡手段も活用していきます。

この間、オープンチャット内では、組合・共済の仲間を増やすために情報を交換・発信を離れた組合員同士でやりとりができたり、本部が伝えたい情報を確実に伝えることがスムーズにできるようになっています。まだオープンチャットに参加されていない方（特に青年世代）は引き続き参加をよろしくお願いします。

教育文化研究所コーナー

「さいたまの教育と文化」93号（秋号）はお手元に届きましたか。「さいたまここに人あり」は、社会活動家の湯浅誠さんの登場です。常に弱者の立場に立って発信し、行動してこられた湯浅さんが「こども食堂」の活動を通して「つながりつづける『居場所』を地域に」をテーマに語って下さいました。

93号（秋号）をお楽しみに

特集「新型コロナ禍にどう向き合うか」では、9人の方に学校・地域等の内実にふれた報告や実践、そして論考を寄せて頂きました。

馬場久志さんは、コロナ禍の問題を「子どもの権利・子どもの目線から」分析し、学校と教育の課題を提起しています。

白鳥勲さんは、子どもの貧困と教育に焦点をあて「『今』を生きる子どもたちに共感と希望を」と訴えています。

ぜひ、今後の実践や活動に役立て下さることを願っています。

教育実践「作文単元どうしていますか」（福田重雄さん）は、問題の多い教科書と向き合いながら、身の回りの生活を題材に「読み合い」（共有）を通した豊かな実践を報告しています。

「教育文化情報」では矢木毅さんが、中学校教科書採択、とりわけ育鵬社教科書をめぐる状況を論じています。今年は「子どもたちにより良い教科書を」と願う取り組みが大きく前進しました。

多忙な日々とは思いますが、手にとってお読みいただき、感想等をお寄せ下さると幸いです。

（事務局長　山内芳衛）

教職員なら全教共済

やってます 出張！共済説明会

手ごろな掛金で家族もサポート/多様な13の共済と保険

ぜひ、あなたの職場でも開催を

放課後の空き教室での説明会

コロナの影響で、職場での共済説明会が開催できたのは11月からになりました。現在、2ヶ所の小学校で行いました。

希望を受けながら、13種類の共済と保険について説明しています。

お手ごろ、安心の全教共済は、教職員の助け合い、生活を守る組合の福利厚生活動です。取り扱い総加入件数は40万件を超えています。

総合共済　拡大目標100人　目標達成　現勢回復まであと30

秋の特別キャンペーン　ハーゲンダッツギフト券プレゼント　医療共済、火災共済にて実施中

埼教組QRコード

【埼教組共済会】048-824-2759　saikyouso@kyouiku-net.org
自動車保険・がん保険【(有)むさしの保険事務所】048-833-1918

埼教組